第5期 国分寺市公民館運営審議会 第13回定例会

日 時 令和7年1月24日（金）午後2時～午後4時

場 所 本多公民館 会議室

出席者

■委 員 田中委員長・鈴木副委員長・松田委員・稲津委員・川上委員・江渕委員
坂本委員・辻委員

■職 員 渡辺本多公民館事業係長・櫻井恋ヶ窪公民館長・久保もとまち公民館長
鎌田並木公民館長・鈴木本多公民館職員

事務局：本日は委員11人中8人の委員が出席です。委員の過半数が出席になりますので、本日の会は成立いたします。よろしくお願いいたします。先本日、田中委員長はZoomでの参加となりますので、よろしくお願いいたします。

田中委員長：よろしくお願いいたします。

事務局：本日は公民館課長の本多と、光公民館長の保谷が、第二小学校の記念事業にどうしても参加する必要がございまして、事務局側2名、欠席となります。よろしくお願いいたします。では、進行は鈴木副委員長、よろしくお願いいたします。

鈴木副委員長：そういうことで、私が進行代理でやらさせていただきます。覚悟を決めていたのですが、やはり不安ですので、皆さんご協力をよろしくお願いいたします。それでは、第13回国分寺市公民館運営審議会を開催いたします。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。よろしくお願いいたします。

1 連絡事項

(1) 配付資料確認

鈴木副委員長：まず最初に連絡事項で、配付資料の確認です。事務局、説明させていただきます。

事務局：配付資料の確認をさせていただきます。まずは次第があるほうになります。一番上に次第がありまして、次に資料の13-1で、第12回定例会の議事録となっております。資料13-2で、第3回国分寺市教育委員会臨時会及び第11回国分寺市教育委員会定例会の報告。資料13-3で、国分寺市教育7 DAYSの報告。資料13-4で国分寺市公運審答申の構成に関するたたき台。続いて、資料ナンバーが振っていないものなのですが、公運審答申の構成に関するたたき台の資料というところで、2枚、4ページ分のものであります。まずそちらをご確認いただければと思います。続いて、そのほかに「けやきの木樹」が12月の15日号と1月の15日号がありまして、そのほかに恋ヶ

窪公民館運営サポート会議だよりの第7号と、50周年記念特別号ということになっております。そのほかに前回、委員部会の報告の際に少し話があったと思うのですが、今後の社会教育の推進についてという文科省からの資料が1つありますので、そちらもご確認をお願いいたします。そのほか、『月刊社会教育』の抜粋のものが一部あります。あと並木公民館のページマップがありますのでご確認ください。そのほかに、次第の裏面に参考資料と書いてあるものがございまして、それがダブルクリップでとめてあるものになります。公民館の利用案内というのがついているものになります。こちらなのですけれども、今後の答申の作成のときに関する参考の資料になるというものがありますので、公運審のときに毎回配るのは紙としても無駄になってしまうので、毎回これはこちらに置いて帰っていただいて、また次回、机の上に置いておくという形になりますので、この公民館の利用案内のところのどこかお名前を書いておいていただければ、また皆さんのところに、手元に戻るようにしておきますので、よろしくをお願いいたします。こちらのほうが、数は多いのですけれども、まずは一番上に公民館の利用案内がありまして、そこから現庁舎用地複合公共施設ニュースレターが3月分、6月分、8月分とそれぞれ2枚ずつになっています。その下に、国分寺市現庁舎利活用基本計画の素案の概要版が4ページ、2枚になっております。その下に、国分寺市立福祉センター、国分寺市生きがいセンターとくら事業報告書というものが全部で11ページになります。それから、教育長への意見書が2枚ありまして、その次が諮問文になります。その後が過去6年間に図書館・児童館と連携した事例の質問項目というところがありまして、その後地域づくりに貢献する公民館の役割というものが2ページ、1枚あります。その後、国分寺市公民館設置及び管理に関する条例、その後公民館使用条例、そして公民館使用条例施行規則というものがあります。その後恋ヶ窪公民館の令和5年度の事業報告書になります。かなり枚数があるのですけれども、それがありまして、一番後ろに恋ヶ窪の地域の地図という形になっております。参考資料のほうは基本的に皆さんに一度お配りしたもので、または市のホームページにあるものになりますので、もう1回読みたい、手元に欲しいということがあれば、事務局までご連絡ください。配付資料は以上になります。ご確認のほどよろしくお願いいたします。

鈴木副委員長：いかがですか。ご確認できましたでしょうか。

委員：1個だけ。この次第に入っていないのは、今、事務局から紹介ありましたが、裏表でとじてある「国分寺市公民館5館地区独立館体制と市民参加」というのは、月刊『社会教育』の11月号に、公運審を9年間くらい務められた前市議の長谷部豊子さんが寄稿しておりましたので、今回の課題に非常に近いテーマで書かれていましたので、これだけいっぱい、今日資料が配られると思わなかったもので、ご参考までをお願いして配らせていただいています。

よろしく申し上げます。

鈴木副委員長：委員さんからのご希望で、資料として追加されています。ご確認をいただきましたか。よろしいですね。そのほかには資料、大丈夫でしょうか。

(2) 第12回定例会議事録確認について

鈴木副委員長：それでは次は、第12回定例会議事録確認をお願いいたします。

事務局：資料13-1で、第12回定例会の議事録をお配りさせていただいております。ご確認いただき、修正がありましたら、2月7日、金曜日までに事務局までお願いいたします。

鈴木副委員長：2月7日、金曜日です。よろしくをお願いいたします。

2 報告事項

(1) 令和6年国分寺市教育委員会第3回臨時会・第11回定例会について

鈴木副委員長：では、報告事項の(1)、令和6年国分寺市教育委員会第3回臨時会・第11回定例会について、事務局から報告をお願いいたします。

事務局：令和6年第3回国分寺市教育委員会臨時会及び第11回定例会についてご報告いたします。まずは臨時会のところになりますけれども、このときは、公民館のものはないのですけれども、教育総務課から令和6年第3回定例会の一般質問について報告がありました。公民館に関する質問は2か所ございましたので報告いたします。1点目は皆川議員から、国分寺市の公民館社会教育施策は国の生涯学習関連の審議会で審議されている内容を既に多く実践している。また、市内に5館ある公民館は地域の特性を生かし、50年以上の歴史を持つ。公民館では社会教育士や社会教育主事等の資格を持つ職員を配置し、地域のファシリテーター役として機能している。注目される取組として、40年以上続く障害者向けのくぬぎ教室や、幼い子を持つ親のための教室などがある。教育ビジョンは社会教育施設や公民館活動の基本的な考えを示すものであり、現在計画中的複合施設における恋ヶ窪公民館図書館の運営指針となる重要なものであるという形で、教育ビジョンについての質問の中で、触れられておりました。教育部長は、今後、移転予定の恋ヶ窪公民館図書館を含め、市内5か所にある公民館図書館と社会教育施設については、教育ビジョンによる考え方に基づいて運営していく。その自覚を持ち、しっかり教育ビジョンの策定を進めていくという形で答弁をしております。続いて2番目は、寺嶋議員からの質問になります。国が新NISA、iDeCoなど、資産運用制度を整備し、金融リテラシー向上の環境が整いつつあるとして、地方行政として、市民の金融リテラシー向上に関与すべきか疑問を呈しつつ、少なくとも国の制度理解を深める取組は可能ではないかということで質問されました。また、詐欺対策だけでなく、新しい金融知識を身につける観点からのセミナー実施の可能性を併せて質問されておりました。それらの質問に

対して、教育部長は、過去に公民館において、PTA連合会との共催で、ライフプランや詐欺対策に関する講座を実施している。また、公民館主催事業の10の基本テーマに資産運用が該当しないため、単独のテーマとしての実施は困難であるが、安心・安全のテーマの一環として、詐欺対策を含む正しい知識を身につける講座の可能性は検討していくという形で答弁がありました。続いて、令和6年第11回国分寺市教育委員会の定例会についてです。ここでは、国分寺市教育7DAYSについての報告を公民館課からしております。内容としては、資料13-3です。並木芸術ギャラリーの報告をしておりますので、そちらは並木公民館長より報告いたします。

事務局：教育7DAYSは、教育について考えるきっかけになることを願いまして、例年、10月下旬から11月上旬の7日間で設定し、教育に関する取組を市全体で推進し、本市における教育の充実と発展を図るというものでございます。今年度は、10月29日から11月4日を教育7DAYSということで設定しております。公民館側としましては、この期間に該当する事業としては、並木芸術ギャラリーを行いましたので、これについて報告いたしました。こちらの並木芸術ギャラリー、前期と後期に分けておりまして、後期の実施期間は令和6年10月1日から令和7年3月27日に実施しております。こちらの事業は、地域で自分の作品を展示披露する機会と場所を提供することを目的に、並木公民館ロビーのガラスケースや壁面及びパネルに、個人や市民グループから募集した作品を展示するもので、絵画や書道、陶芸など、ジャンルを問わず作品を募集し、展示期間は月ごとの入替え制で行っております。11月は、並木公民館の近隣にある第六小学校、第十小学校、第五中学校の図工・美術の担当の教員に相談しまして、児童・生徒の作品をお借りして、「教育7DAYS」を含む期間で展示することとしました。実際の展示期間は11月2日から11月28日、第十小学校のみ、11月9日から展示ということで実施をいたしました。展示内容としては、第六小学校は児童作品64点、1年生から6年生まで。第十小学校は児童作品52点、4年生から6年生まで。第五中学校は体育祭で作成した横断幕1枚と、美術部生徒作品40点を展示いたしました。裏面とギャラリーの展示マップをご覧くださいければと思います。一番左上から、五中の横断幕、右が五中の美術部生徒の作品で、左の真ん中が六小児童作品です。1年生は、「先生あのね」ということで、夏休みについての思い出の絵です。2年生は「はさみのアート」、3年生は版画、4年生は「まぼろしの花」ということで、華やかな花を描いています。それから右側は、5年生の素焼きでランプシェードということで、こちらは立体作品になっています。6年生は満月の夜をテーマに、様々な絵を描いています。一番下は十小児童作品、こちらは特にテーマについての説明はなかったのですが、カラフルな絵ですとか、水墨画のような、墨だけで描いた絵ですとか、そういったもの。こちらの右下は、図書館に行く階段のところに展示させていただいています。

展示マップに、それぞれの小学校の作品、展示した場所を載せさせていただいております。実際の展示期間、どうだったかにつきましては、グループ活動で来館された方々が、作品をじっくりと鑑賞している様子が見られました。また、友達同士で来館した児童は、自分の作品が展示されているのを見てうれしそうにしていました。また、保護者が作品を見るために来館される様子が見受けられ、実際、自分のお子さんかなと思われる方が写真を撮ったり、鑑賞をされたりしていました。

鈴木副委員長：ありがとうございます。ご意見とかご質問ありませんか。並木公民館から選出された委員、何か追加がありますか。

委員：いや、特にはないです。

鈴木副委員長：よろしいですか。

3 協議事項

(1) 恋ヶ窪公民館の移転について

鈴木副委員長：それでは、次の協議事項に入ってよろしいですか。では、協議事項の(1)番、恋ヶ窪公民館の移転についてということで、事務局からご説明、お願いいたします。

事務局：恋ヶ窪公民館の移転の進捗状況になります。まず1つは、現在、公民館をはじめ、ほかの施設へ貸し出している備品について、それぞれの担当課がまとめて、集約して公共施設マネジメント課がまとめているところになります。その上で、個別にそれぞれの施設、それぞれの担当とやり取りをして、これが必要なものなのかどうか、重なっているものがあるのか、その重なっているものをどうしていくのかだとか、建物全体の貸出備品にするのか、それぞれの、公民館なら公民館、福祉センターなら福祉センター、それぞれの貸出備品にするのかとか、そういうことは今後話していくことになるところでありますけれども、部屋の机だとか、音響設備、プロジェクターとか、そういうもののところを確認しているようなところになっておりまして、備品に着手しているということが1つ。それからヒアリングやワークショップなど、これまでのものに来ていなかった人の意見をどうやって聞いていくかというところを検討しておりまして、オープンハウスというものを実施しているかというところの話になっています。オープンハウスというのが、いつ、どこで、どのぐらいの期間、何を聞くのかというところになると思うのですけれども、より多くの方が集まりそうなところ、幅広い世代の意見が聞けそうなところ、そういうところ、どういうところがいいかを今、話し合っているところになります。あとは内容です。皆さんの意見をちゃんと、市民の方たちが、皆さんの憩いの場所、建物になるようにするには、どういうことを皆さんに聞いて、意見をもらえばいいかというところで、質問項目の内容も今、検討しているところになっています。この会議の話ではないのですけれ

ども、恋ヶ窪公民館も、今日もたくさん資料が配られていて、前から移転の話は出ておりますけれども、それでもまだ、移転することを知らない、ちょっとは小耳に挟んでいるような方が多いとは思うのですけれども、本当に移転することを知らない人も、公民館利用者の中でもまだ見られるというところで、今、恋ヶ窪公民館の館内に、「移転します」という、それに関するものだけを掲示するようなスペース、狭い公民館なのですけれども、廊下にそういうものを設置しまして、今日皆様にお配りさせていただいているニュースレター、昨年度3回発行されたニュースレターだとか、概要的なものだとか、そういうものも掲示をして、あと、ここから検索したら、ここからの情報が得られますよというようなことも見せながら、恋ヶ窪公民館の利用者の方にも少し関心を持ってもらうというような形のことをやっている現状がございます。

鈴木副委員長：ご質問ありませんか。オープンハウスのことは理解できましたか。分かりませんよね。もうちょっと詳しくお話ししていただけませんか。

事務局：多分、これはまだ具体的にはっきり決まっていないというか、どこでやったらいいのかはあるのですけれども、どういう移転をするのか。一体どういう状況になっているのか。多分、パネルのようなもの、そういうものを用意して、それで皆さんに、幾つかの項目、質問をして、例えば、いろいろなオープンスペースとか、そういうのができることになりましてけれども、まだ全然確定はしていないのですが、そういうところでどういうことをしたいかとか、そういうことであるとか、幾つか質問をこちらで検討しまして、それで皆さんに択一式、記述で聞くところもあると思うのですけれども、これがいいと思うところを選択して、選べるような形の質問項目を基本的にはつくる。あとは自由に書いていただく、言っていただくところも用意するとは思いますが、そういう形で、皆さんにパネルとかを用意し、あとは、多分職員、直接やり取りができるような職員をその場所に配置し、そこで話をしながら、皆さんの意見をもらうというような場所。ただ、どの場所で、どういうものを用意して、何課の職員が行くのかとか、そもそも職員は何人置くのか、職員は置かないでスペースを用意するだけかもしれませんし、そういうところがまだ、全然煮詰まっていない状況ですけれども、皆さんが実際に、わざわざそこに来るというよりも、いつも皆さんが立ち寄るような場所に、目のつく場所に、そういうものを用意して、意見をもらうという形にできればよいのではないかとこのところで、今、実施をする方向で検討をしているところです。具体的なところはまだ煮詰まっていない状況です。

委員：今のオープンハウスで、いつ、どこで、どうやって何を聞くのかとか、いまいちつかめないのですけど、その意見を聞くというのは大人だけの意見ですか。

事務局：いいえ。それはいろいろな世代に。大人だけが使う施設ではございません

ので、いろいろな世代に聞けるようにする。だからそうするには、どういうところで聞いたらいいのかを話しながら、今検討をしているところです。です。高年齢者からお子さんまで、いろいろな世代の方に聞けるようにしたいとは思って、検討を進めているところです。

鈴木副委員長：ちょっとイメージが湧かないと思うのですが、今、恋ヶ窪公民館長が言われたことでは、公共施設マネジメント課から、館長さんたちが備品とか、何がどのように必要であるか、共有であるか、個別であるかというようなことでのヒアリングを受けていて、その結果、まだ検討中だということですが、それとともに、一般市民に対するオープンハウスというところで意見を聞くということが2つ出ているのですが、オープンハウスの部分は、令和6年第4回定例会、議会で公共施設等総合管理特別委員会の報告事項でありまして、公共施設マネジメント課から出ていまして、私はそれに参加したのですが、こんなふうに書かれているので、若干お伝えしていいですか。オープンハウス及びパネル展示並びにLOGOフォームアンケートについて、想定実施時期は令和7年4月中旬から6月頃。公共施設の運用について、館全体や各機能に関する課題に関し、広く意見を募っていく必要がある。とりわけこれまでのワークショップや団体ヒアリングにおいては、アプローチの難しかった方々からも広く意見を聴取するため実施する。先ほど恋ヶ窪公民館長が、年齢を問わず多世代からということと、それからいろいろなワークショップに参加されなかった方の声も聞くということですね。それで、オープンハウスの特徴としては、パネルなどで情報を提供しつつ、スタッフと訪問者とが対話する形式、大勢の前で発言が苦手な市民などの参加を促進できる。都合のよい時間に立ち寄れる。クリップボードなどに参加者の意見を残すことで、他の意見を知ることができる。それから、気軽な会話を通じて、市民などのご意見を個別に伺うことができるということでの提案がありました。これは採決されているのですよね。ということで、ただ、そのオープンハウスが何か所とかということについてはまだなのですね。

事務局：はい。

鈴木副委員長：でも4月中旬からですから。

委員：それは期間として、今、鈴木さんがおっしゃった、4月から6月というのは3か月です。

鈴木副委員長：ですね。

事務局：その間に行うということですよ。

委員：いや、僕は、多分おっしゃっているのはあれですけど、期間として短いのかなと思ったのですが。この間、国分寺まつりが去年でしたか。

事務局：はい。11月。

委員：市役所の新市庁舎の裏でやっていたのですが、行く途中に、それこそボードが出ていて、新市庁舎の周りに利用可能な土地があって、そこをドッグ

ランとかはどうですかとか、ケータリングの車、何というのですか、車が来て食事を提供する。いろいろな案があって、そこに赤丸のシールを、いいと思うのを貼ってくださいみたいなのがあって、おっしゃっているのはそんな感じなのかなと思ったのですが、にしても3か月間だけで意見収集というのはちょっとしんどいのではないかなと思ったのですが。半年とか、ある程度の長期でないと、いろいろな形といろいろな方々に接するのは難しいかなと、今伺いながら思ったのです。この終着点はいつなのですか。いつまでにやらなくてはいけないみたいなのはあるのですか。プランとしてはまだ向こう2年くらいありますね。

事務局：今、基本計画をやっているところで、当然、実施計画に関わるより前に全部やっておかないといけない部分があるので、さほど時間はないのかなというように感じて、前回、この会議で言っていたのは記憶しております。

委員：実施計画に着手するタイミングは今年の秋ぐらいですか。まだはっきりしていない。

事務局：そんなに時間はないというように感じでは言っていたのですが。

委員：どこかに書いてあったと思いますけど、全体のタイムスケジュールがあって、来館者さんとか利用者さんとか、いろいろな方々の意見とか、案とかを聞くというのは大賛成なのですが、どこまでにそのゴールがあって、その手前として、3か月って、すごくバタバタ慌ててやっているなという印象を受けたのです。半年ぐらいは時間をかけて、いろいろな方法で聞けるといいのではないかという感想を持ちました。

鈴木副委員長：追加してお伝えしますと、基本設計運用を検討するスケジュール表というのがありまして、これは後で皆さんに印刷していただければうれしいですよ。オープンハウスの意見を聞いた後でパブリックコメントをやりまして、そして9月末から10月に事業者を決めたり、パブコメ結果報告ということで、9月議会で。

委員：9月。秋頃ですね。

鈴木副委員長：ですね。9月の議会から、運用に関する基本的な考え方、施設管理の決定をするということになっているようです。

委員：パブリックコメントは多分、ウェブ上でとるのでしょう。

鈴木副委員長：そうです。あとは閲覧。

委員：ウェブサイトでも公開して、いろいろ書き込むと。

鈴木副委員長：はい。あと公民館とか市庁舎に。

事務局：紙ベースでも行います。

鈴木副委員長：紙ベースで閲覧。だからメールで送ったり、お手紙で送ったりは可能ですよね。

委員：そのもろもろを一応9月までやらないといけない感じですね。

鈴木副委員長：そうです。

委員：そんなに時間はないですね。

鈴木副委員長：はい。またこれは付け足しになるのですが、この間、公共施設マネジメント課に行く用事があったので確認したのですが、オープンハウスで意見を聞くということなので、個別に、例えばどこかの団体とかと話し合いを持つとか、意見を聞くということはしないということでした。ほかに皆さん、質問とかご意見はありませんか。備品とか、各部屋の機器とか、配置のこととかでご意見ありませんか。あれば、また恋ヶ窪公民館長を通して、公共施設マネジメント課のほうに要求を出せると思うのですが、ありませんか。大丈夫ですか。では、思いつかれたらまた後で。

委員：私、前回欠席でした。なので、あまりよく流れが分かっていないのですが、今この公民館の移転について、要するに移転するではないですか。新しいことをおっしゃっているのですか。もともとある、それについてはどうなっているのかなと思いつつ。要するにそれを壊してしまうとなってしまうのか、それをまた活用するというふうになってしまったのか、そのところはどうかかなと思いつつ、今聞いていました。

事務局：全く何も聞いておりません。

委員：まだ全く。要するに潰すということも。

事務局：潰すということも。

委員：分からないし、活用するかもまだなし。今の、これについてというのは、新しい公民館ですね。

鈴木副委員長：そうです。

委員：分かりました。

鈴木副委員長：よろしいですか。補足、追加ありませんか。よろしいでしょうか。

(2) 諮問について

鈴木副委員長：そうしたら、協議事項1番目は終わりにして、次の諮問についての答申(案)の検討についてお願いします。事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局：前回の定例会の後に、委員長、副委員長と事務局で、一旦お話をするというお話になったとは思いますが、先日、12月18日に、委員長、副委員長、事務局で打ち合わせを行いました。その結果というか、話し合いの中で出した項目が資料13-4になります。本日の主な協議事項になっていく形になりますので、ご協議いただければと思います。また、答申の構成に関するたたき台につながるものとして、先ほど説明した参考資料をご用意させていただきましたので、ここも参考にしながら協議をしていただければと思います。また、何かこういう資料が欲しいとか、こういうことはどうなっているのかというところがありましたら、ぜひ事務局に言っていただければ、用意できるものは用意していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。このたたき台の説明については、委員長からしていただく形になりますので、よろし

くお願いいたします。

鈴木副委員長：田中委員長、お願いします。

田中委員長：どうも皆さん、こんにちは。よろしく申し上げます。これで声は大体聞こえますか。大丈夫でしょうか。今日は非常に大事な、今期中でも一番大事と思われるほどの日だと思うのです。こういう日にZoomからの参加で本当に申し訳ありません。実は、先ほど事務局からご説明がありましたけれども、今週の月曜日に新型コロナウイルスに罹患したことが分かり、残念ながら、床に伏し、ただ、ワクチンをかなり頻繁にというか、毎回打っていたので、あまり症状がひどいのは出なくて、高熱だけ出た状況で、その熱も昨日から平熱になりましたので、比較的、心身の状態は悪くなく、部屋の中で安静中という状況です。東京都の保健医療局で、一応かかった人への配慮みたいなガイドラインがあるのですが、まだ今日は外出を控えることを推奨される期間内ということですので、ご迷惑をかけると悪いので、残念で、また申し訳ないのですが、自宅からのZoom参加ということにさせていただきました。コロナのためにいろいろボートとしていまして、ちょっと今、コンピューターの電源が切れそうになりましたので、ちょっとお待ちください。今コンセントをつなぎます。その間ちょっとリラックスして、資料13-4などを眺めておいていただければありがたいです。接続しながら、私もパフォーマンスが何かできるというのですが、そこまで能力がないので。

鈴木副委員長：委員長がチェックされている間に、資料を見ていただくと分かるのですが、担当はどうするかが各項目に入っています。皆さんの中で、ここは自分がやるよというところがあれば、見つけていただいて、1人では駄目なので、誰かと一緒にやるよとか、そういう部分、よろしく申し上げます。

田中委員長：それで説明の前に1点、先ほどの進捗状況を聞いていて気になったので、事務局に確認したいのです。今回、この答申が出るのが来春というか、この後の春になるので、進捗状況のスケジュールとの兼ね合いで、この答申がどのように生かされるか、これがとても重要だと思います。我々が答申を出した後、当然、館長さんたちに受け止めていただき、教育長さんにしっかりと見ていただくのは当然だと思いますけれども、その上で公共施設マネジメント課のほうに教育委員会としてこれを提出し、公運審がこう考えている、教育委員会もこれに賛同するというので、教育委員会として強くこの答申のポイントを、まだできていませんけれども、我々が提案するものを教育委員会としてきちんと受け止め、そのままではにしないにしても、公共施設マネジメント課のほうに、その趣旨を生かして、設計に少しでも反映させるように努力することをちゃんと課長、部長、教育長で連携してやっていただけるのでしょうかということを確認する大切な時期です。恋ヶ窪公民超にお聞きするしかないのですが、どうでしょう、これはやはり教育委員会として、きちんと受け止め、ちゃんと公マネに対して、この答申が出たら、趣旨を生かしてい

ただかないといけないと思いますけど、どんな状況になりそうですか。

事務局：私がこうしますとは、申し訳ないですが、確かにこれを一生懸命皆さんで時間をつくって、当然、いい施設にしていくために必要なことですので、そのご意見を課長に伝えたいと思います。

田中委員長：はい。よろしくをお願いします。では、改めまして、資料13-4を、先ほど、副委員長から、これはよく、丁寧に話さないで理解できないのではないかとされたので、ちょっと抽象論の高い項目ばかり並んでいるものですから、少し補足を含めながらご説明したいと思います。時間にも限りがあると思いますので、できるだけ効率的にはやろうと思っております。先ほど、副委員長からあったと思いますけれども、ご担当云々のお話がありました。アンダーラインを引いた箇所が、資料作成執筆の担当（案）となります。これは私のほうで考えたものなので、違いは直していけばいいと思います。まず、諮問事項、具体的には2つあります。1つが、これからも地域に根ざす公民館としての役割。これは私のたたき台、項目の、これはミスプリントがまだ直っていない状況で送ってしまったかもしれません。1ページの下のほうに、「これからも地域に根ざす公民館としての役割について」とありますが、これが諮問事項の1番目に対応します。それから諮問事項の2番目が、「複合施設内の他の施設と連携した事業展開について」、これが私の提出しているたたき台の裏面というか、2ページの3番目の項目になります。この2つを我々は提案することになるわけです。画面共有をさせてもらってもいいですか。皆さん、お手元にもありますけれども、画面共有で見ていただきながらのほうが分かりやすいかと思うので。字も小さいので場所だけ。小さいので多分、皆様から画面の字はよく見えないかもしれませんが、お手元の資料と、私が指し示す場所を対応していけば分かりやすいかなと思います。今申し上げた2つが、我々が提案すべきことなのですけれども、その前段として、1つは、今回、どういう複合施設になるのかという概要と、その提案の前に、公民館とは一体どういうものなのか。これがちゃんと明確になっていなければ、せっかくの提案も、どういう意味を持っているのか分からないということになりますので、この2つをまず前段で押さえておこうということになります。複合施設の概要については、もう既にパンフレットなどもいただいているし、先ほども事務局からご紹介があったように、ニュースなどが今、お手元にあると思いますけれども、そういう流れの中で、こういう複合施設として今、計画が進んでいるというのがありますので、そのあたりを公民館課にまとめていただけるとありがたいなと思っています。ただ、最終的な文章化が難しければ、該当する資料をちゃんとそろえていただければ、文章は私のほうでやってもいいと思っております。要するに恋ヶ窪公民館が入る複合施設というのは、今どういう計画のものになっているのか。特にコンセプトとして、目的とか役割とか、地域との関係、これがとても重要で、このためにつくる

複合施設だと。だから公民館がそこに入る場合、どういう地域的役割が必要なのか、他施設との連携が必要なのか、そういうものが明確になってくるわけです。という前提条件をまず押さえるというのが1番です。それに対してもう1つは、そもそも公民館とはどういうものなのか。我々は委員の講義だとか、いろいろなことを経て、公民館とはこういうものだというイメージ、それから実際に公民館活動をされている方が委員になっておられたりするので、ご自身の経験とか、いろいろなことでもう把握されていることだと思いますけれども、そういうのを文章化して、改めて公民館の肝というか、ポイントはこういうものなのだというのをまず明確にしておいた上で、複合施設に入るに当たって、それがうまく生きるようにしなければいけないということを書きたいということです。ポイントは、今、公民館事業は直営で残りますということを言われて、半ば安心したという面と、もう1つ、公民館事業は直営で残りますということは、どういうことを意味しているかということ、要するに公民館が主催する事業は、指定管理者がやるのではなく、職員がちゃんと企画・運営してやるのだということが保証されたということですが、それだけやっていけば公民館なのかということです。公民館には施設があり、職員がおられて、市民がいて、職員と市民の交流によって、1つの空間が出来上がり、それによって学びの世界、そしてまた地域活性化の機能が発揮されている、それが公民館だと思いますので、主催事業が残ったというだけでは、恋ヶ窪公民館がちゃんと残るということには決してならないわけです。そこで、公民館の機能とは一体何があるのかを改めて確認しようとしたとき、一般的には①の主催事業が直営で残ります。これはとてもいいことです。これが1つ。もう1つは、いわゆる部屋貸しと言われますけど、自主グループなどが部屋を借りて活動をする。これをマネジメントしていく。これは、今回は指定管理者の仕事になるということですがけれども、一般的には、この①②しか見えていないのではないかと思います。だけれども、恋ヶ窪公民館の後ほどの副委員長がつくられる、今の実態、それから皆様のお手元にあるような恋ヶ窪公民館の事業報告とか、それからサポート会議の50周年報告みたいなもの、レポート集を拝見すると、この2つだけやっていけば公民館ということとは決してなくて、3番目にとても重要なのが、職員と市民が交流し、そしてまたサポート会議とか、これからできる予定だと聞いていますけれども、地域会議。そういうものは、市民だけではなくて、地域のいろいろな団体とか機関とか、そういうものが交流する場でもある。それが公民館なのだ。ですから職員と市民及び地域団体・機関の交流というものが公民館の機能としてとても大事で、そこから①もいい形で生まれてくるし、②の活用も効果的になってくる。その①～③の総合体として、地域活性化に公民館が役割を果たしていくのだということだと私は思っていますので、この③の機能を、とりわけここでは重視したいと考えています。多分、公マネにはその考

えがないと思うので、そのあたりをちゃんと強調し、施設的な条件も、それがちゃんと担保されるようにならなければいけないのではないかと考えています。この③というのは、公民館の地域づくり機能。これは社会教育法の第20条、これは公民館の目的ですけれども、そこにちゃんと書いているのです。地域福祉に貢献するとか、地域文化の向上に貢献するとか、地域をよくするための公民館、これが公民館の目的として法律でちゃんと規定されている。それから今の平成15年でしたか、文科省が改正した公民館の設置及び運営に関する基準という中の第3条が、地域の学習拠点機能というものなのです、公民館。それはどういうことかということ、市民が集うだけではなくて、地域の機関とか団体の交流拠点にもなるというようなことが書かれていて、そういうことを通して、地域全体の学習の拠点機能を果たさなければいけないということにもなっています。ですから、この③というのは、こういう点から見ても、とても大事なポイントになってくるということで、③の職員と市民及び地域団体・機関の交流の場としての公民館、これをなくす複合化はあり得ないと考えなければいけない。交流というのは、どのように交流するか。もちろん、ネット上で交流するとか、場所がない交流もありますけれども、やはり対面の交流というのは、交流の中でもとても重要なことなので、場所が必要ということです。それは予約をして、部屋を借りられれば、そこで交流すればいいかと。そうではなくて、常時、地域と関係者がやってきて、職員と交流しながらいろいろなアイデアを話し合う、雑談する、言わば井戸端会議みたいなものが、関係者の間でいつでもできるような場が保証されていることが大事で、これは我々が教育長に提案した意見書の中の3の①の発展系と見ていいと考えています。というのは、意見書の3の①というのは、市民と職員の交流の場が必要と書いたのですけれども、ただ、文科省も、上で説明した資料によると、市民だけではなくて、地域の団体とか機関の交流もとても大事だということで、意見書の3の①を発展した形で、さらに今回、答申の中で書くべきではないかと考えています。ただ、交流、交流といっても、職員と市民や団体・機関がただ交流すれば、何かいいものが生まれるかというと、下手をすると、ワーワー、ワーワー、アイデアばかり生まれて、どうにもならないかもしれない。それをうまく市民とか団体・機関と職員をつなぐのがサポート会議ではないかと思うのです。ですからその次のところに、③の交流機能を高めるための仕組みがサポート会議。今、国分寺市は、本来は公運審ですけど、公運審は市で1つになりますので、その代わりにサポート会議ができていますので、サポート会議と。さらには恐らく、地域会議も今度生まれると聞いていますので、その辺も含め、サポート会議と地域会議が①と②の効果を、交流を通して高めていくものになるのではないかと考えます。このように、交流ということができるよう施設的な状況が必要で、そういう意味では、公民館というのは施設と事業が一体化したトータルなもの

だと見なければいけないので、直営事業だけが残ったから公民館は維持されましたということには決してならないということです。そしてまた、条例上は、ここからここまでが公民館だと規定されても、それは単に、借りる部屋の行政上の位置づけがそうになっているだけです。それだけでは③の条件は満たせない、やはりこのあたり、職員と地域団体・機関、市民の交流がちゃんと担保されるような施設状況が必要ではないかなと考えています。括弧内に書いたのは、では専有が必要かということになると、またこれは、これまでの公共施設マネジメント課が進めてきたものをひっくり返すことになり、それはまず無理だと思いますので、専有は求めないにしても、専有ではなくて、共用であったとしても、恋ヶ窪公民館を利用してきた方々にとって、ここが私たちの場だと。私たちの施設だと思えるということがとても大事だと思うのです。それは下手をすると、外から見れば、利己主義とか、利用者の閉鎖性、自分たちの場だという、閉じこもるといふか、排他性といふか、そういうものを感じる人もいるかもしれませんが、そうではなくて、利用者が社会教育の実践者として、ちゃんとアイデンティティーを持っていて、地域に対する責任感が醸成できると。それがやはり、地域づくりにもつながるといふことだと思いますので、そういう、私たちの場がここなのだと思えるものをちゃんと用意しなければいけない。それは、これまでの恋ヶ窪公民館の利用者にとっての場だけではなくて、さらにまた広がっていいと思うのです。だから考え方としては、施設全体が公民館だと。これまでもいろいろ繰り返し出てきましたけれども、我々としては複合施設全体が公民館だと考え、そして公民館的な考え方で、ちゃんと地域づくりにも貢献できるというつながりを大事にしようという人が利用できるような、自由に利用できるような場がちゃんと用意されていることが大事なのではないかというように思います。それが自治基本条例でうたっている参加と協働の担い手を育むことにもなるので、とても行政上も重要なのではないかと考えています。ということで、先ほども答申の使われ方の確認をしましたがけれども、そのほか細かいことで、館長はちゃんと置かれると考えていいのか。これは公民館としては残るので、館長が置かれるのは当然だと思いますけれども、一応確認です。館長は置かれるのかということと、施設利用について、主催事業とか、公民館自体の活動、例えば地域会議ができるとすれば、それが主催事業の位置づけになれば当然、主催事業が入るのですが、そういう公民館の主催事業は、一般利用者の利用に先んじて、かなり先に、優先的に確保できると考えておいていいのかということです。それから、これまでも繰り返し確認してきましたけれども、今の時点でどうなっているかです。公民館利用案内の各館の部屋一覧ではどのように書かれるか。これは、公民館利用案内という、この間、本多公民館で小さいのを、色つきのをいただいたのですけれども、そこに各館の部屋の名前など、全部一覧が平面図であるのです。そこ

には、今度、複合施設に入るとどう書かれるのか、ちょっと気になりました。ということで、以上、この②が結構肝だなと思っているので、ちゃんと書きたいと思っているのですけれども、ここは識見の委員の力も得ながら、田中と二人で書こうかなと思っていますが、今日、委員がおられたらご意見いただければありがたいし、おられなければ、後でまた調整したいと思います。それが12月18日の打ち合わせから新しく加えたことです。それから次に、いよいよ答申の具体的な報告ですけれども、2つの具体的なポイントです。1つは、これからも地域に根ざす公民館としての役割についてということで、地域の関わりです。これで大事なものは、これまでの地域との関わりということで、後ほど鈴木副委員長から、今、作成中のポイントをご紹介いただくとありがたいのですけれども、まず、恋ヶ窪公民館が地域でどういう役割を果たしてきているかということです。これをちゃんと表現しなければいけないと思います。今、事前に拝見したところによると、鈴木副委員長が書かれた現時点での、あるいはこれまでの恋ヶ窪公民館の地域との関わり。とても充実しているということが表れていますし、それとともに、今日、皆さんにもお配りしていただいていますけれども、恋ヶ窪公民館の昨年度の事業報告です。カラーのチラシも組み込まれた形での、とても分かりやすい資料があります。それからさらには、サポート会議の50年史ですか、皆さんの感想とか、レポートがまとまったもの。この3点を事前に拝見すると、本当に充実した、学びと、それから市民の間のつながり。そしてさらには、それが地域の活性化に広がっているということが生き生きと感じられるものなのです。だから、これを潰すというのはあり得ないので、恋ヶ窪公民館のこれまで積み上げてきたすばらしいものを、複合施設に入ったら、さらに広げていくというような形を我々は提案するというような答申にしていきたいと、今つくづく感じています。それでは、鈴木副委員長から、これを今、簡単に報告していただくことはできますか。

鈴木副委員長：本当に簡単にです。それで簡単に説明をしましたら、恋ヶ窪公民館の事業報告やら、それから公民館運営サポート会議で出した50周年の冊子をやはり見ていただきたいので、5分くらい休憩をとってよろしいですか。

田中委員長：はい。

鈴木副委員長：よろしいですか、そういうことで、皆さん。皆さんにお配りしましたら、ナンバリングが間違っています。一番最初に2と書いてありますが、田中委員長がご提案された通し番号では、それは大きな3番です。2番が2つありましたでしょう。その2つ目の2番が3なのです。その3番の(1)の①の恋ヶ窪公民館ということです。私が知り得た範囲での、時間と頭は随分使ったのですけれども、穴だらけです。たたき台の素案ですので、これから恋ヶ窪公民館長と詰めていきたいと思います。文章化はしていません。ずらずらと書いただけなので、それも含めてしっかり作り直したいと思いま

す。

委員：では、裏面の3が4になるのですね。

鈴木副委員長：そうです。恋ヶ窪公民館の利用者団体は20以上あるということで、これも把握していません。どうして把握できないのかについては、後で館長から追加で説明していただけたらと思います。利用者団体の活動状況も、これも把握しなくていいことになっているのです。でも、ピンクの冊子でしたか、恋ヶ窪公民館のこれを頼りに、それからいろいろなニュースとかを頼りに掘り起こしましたら、ボランティア団体の例としては、国分寺市にふるさとをつくる会というのがあると。それから、公民館事業から生まれたグループがあると。幼い子を持つ親のための教室がずっと行われていたのだけど、その中から4つのグループが生まれていて、保育グループ「つむぎ」というのは、今年度は、キッズコーチング何やらというのを公民館と共催で行っていますよということ。それからあとは、書道愛好会というの、伺いましたら、もともとはシルバー人材センターとの関わりで発足したグループで、公民館を拠点にして、そんな講座を自分たちで楽しみながらやっているとということです。それからあとは、公民館に集って、公民館祭5館での発表を楽しみにしているグループが今ありまして、これは音楽関係ですけれども、コーラス、ポシエットとか桐花という琴の演奏グループ。それからギターのグループ、委員1人も入っていらっしゃるグループがあるのですが、そういう方たちは、公民館で練習して、公民館祭、ほかの音楽祭で発表することを目標に頑張っているらしいとか。それからあともう1つは、公民館運営サポート会議と公民館との共催から生まれたグループがありまして、共催事業では、公共施設をデザインする、公民館・図書館から考える公共空間というのが何年か前に開催されたのですが、その後、国分寺市の公共施設をデザインする会を立ち上げた。それで、現在では恋ヶ窪公民館が市庁舎跡地に建設される複合公共施設移転後も、社会教育施設として発展する施設となるように活動を続けているということです。あと裏面へいきまして、もっとほかに、公民館事業から生まれたグループとかはもっとたくさんあると思うのですが、拾い上げられたのはこれだけでした。それから、公民館祭もありますが、ここは利用者団体だけではなく、東経大のボランティアサークルとか、青少年育成地区委員とか、ジュニアリーダーとか、いろいろと地域の団体、公共団体の協力を得ながらやっています。それからあとは、公民館事業で、これが恋ヶ窪公民館の特色ある事例と言えるかどうか、私、分からないのですが、ジュニアサロン公民館学習室「こいがくぼ国際教室」というのがあって、写真を添付しておきましたけれども、人数が少ないので、写真に、ちょうど下に、中庭で遊んでいる風景。実際に顔が写った写真は提供できないので、こんなのみかできませんでしたが、答申で出す場合には、もうちょっと選んで添付したいと思っています。それから、中庭キッズ水遊びというので、これは恋ヶ窪

公民館の特色の1つなのですが、ここには写真はありませんが、中庭にビニールプールを設置して、幼児のための水遊び場をやっている。それから、16ミリフィルム上映会。それから、くぬぎ教室。2012年から行われているので、恋ヶ窪公民館独自ではないのですが、本多、並木公民館と3館でやっているのですが、中庭での活動が好評です。くぬぎ教室の写真はここにはありません。それから、ついでに戻りますが、公民館祭の写真で、ジュニアリーダーというのをやっていた人たちがお店を開いているのが、添付してあります。それから、公民館運営サポート会議は、どこの公民館運営サポート会議も同じようなのかわかりませんが、公民館の利用者、これは条例で決まっているのでしょうか。利用者3名、地域団体の代表者4名、それから学校教育関係者1名、校長ですね。今は九小ですが。それから社会教育の関係者2名、恋ヶ窪公民館図書館長と都立大学准教授です。「社会教育関係者2」というところに括弧を入れるのを忘れました。全体で、10名で行われていますが、それから恋ヶ窪公民館では、公民館運営サポート会議の共催事業を毎年展開しています。事業の名前が、これは正確ではありません。私の記憶に頼っているのです。それで、ダジック・アースについては写真を添付してあります。これは公運審のときに、九小のPTAから、共催できないかということだったので、実現しました。それから、一番大事なのは子どもの居場所なのですけれども、写真にもあるように、児童館がない地域なので、放課後、土日・祝日とか、それから長期の休みは、子どもたちは公民館の狭い廊下でお勉強したり、遊んだり、中庭で遊んだり、あとは講座室が学習の場、自由学習の場になったりということで、今回は、七夕飾りをつくっている写真が載っています。左が椅子の上で、みんなで遊んでいる。とてもとても狭いところだけれども、子どもたちの居場所であり、それから休日とか、悪さをすると、管理人に「おまえたち、一体何しているんだ」とか注意してもらったりしながら。それから子どもたちが、大人が講座室等で勉強している姿を見ながら、自分たちもここで、大人が勉強している姿に学ぶというか、そういう、児童館とはちょっと違う学習の場になっている、暮らしの場になっている。決して子どもたちは、公民館を利用するお客様ではない。そこで育ち合い、育てられているというのが恋ヶ窪公民館の特徴であります。それから、そんなことですが、あとは恋ヶ窪公民館の課題と書いてありますが、後で、地域会議ということ、さっき田中委員長がおっしゃっていますが、これからつくっていこうということで、恋ヶ窪公民館長が中心になって密かに動き始めていますので、商店会とのつながりが、恋ヶ窪公民館祭でちょっとできたので、やっといこうというか。前回皆さんに、商店会の会長のところに行ってご挨拶できたので、つながりができて良かったです。雑駁ですが、以上です。休憩をとらせていただいてもいいですか。すみません、5分で。

田中委員長：お願いします。

鈴木副委員長：はい、5分お願いします。

(休憩)

鈴木副委員長：では、5分たちましたか。お願いします。始めます。それでは、恋ヶ窪公民課長、何か違うよとか。

事務局：午前中に鈴木副委員長から送っていただきまして、時間もあまりなかった中で、例えば団体名だとか、そういうところはもう、ちょっとこれは表記が違ったというところは、これから修正していけばいいと思っております。ただ、ちょっと年数が違う、今は多分急いで用意されたと思うので。例えば、ジュニアサロンが始まった年だとか、くぬぎ教室が始まった年には誤りがありました。この辺が、ジュニアサロン「こいがくぼ国際教室」はまだ、今7年目ぐらい。いろいろ試行があって、本実施を始めてみたいなどの流れはありますけれども、令和になる直前ぐらいからになっていますので、2015年というのがちょっと。2019年かなと思って。あとくぬぎ教室は、間もなく50年の歴史があるもので、昭和51年、1976年から実施をしておりますので、その辺のところ。ちょっとまだじっくり読み込んでいなくて、斜め読みのところもありますけれども、その辺の訂正が必要かなというところですかね。あと、運営サポート会議については、これは今、第5期です。第5期の構成がこのような形というところがありまして、会議の委員が10名以内で、なので必ず利用者が3名とか、地域団体の代表者が4名という、そこの縛りはないですね。

鈴木副委員長：そうですか。

事務局：なので、書かれているとおり、利用者、地域団体の代表者、あとは学校教育の関係者、社会教育の関係者、これが入ることは決まっている。そして10名以内ということが決まっているのだけれども、その内訳の人数については、それぞれの館でも若干違いがございます。

鈴木副委員長：ありがとうございます。

事務局：共催事業のタイトルとか、その部分も後で読ませていただきたいと思っています。

鈴木副委員長：心配だったのは、特色ある事業例というのが、これだけではないよねと。歴史講座とか、かつてやっていたので。でも恋ヶ窪村分水があったりしたので。それはまた後で教えていただきます。それで、さっきもとまち公民館長からご指摘あったのですが、利用者団体205団体、コピー機を利用している団体が59団体、恋ヶ窪公民館に限ってということです。常時活動ではなくて。

事務局：1回でも使ったグループが205、コピー機の利用登録団体数が59と。令和5年度です。なっております。

鈴木副委員長：そういうことになります。ありがとうございます。皆さんからは質問を受けてもしようがないので、パスします。いいですか。田中委員長、続きをお願いします。

田中委員長：ありがとうございました。それでは、あとの部分は割とさらっと私のほうではいくと思いますので、ちょっとお待ちください、今、画面共有します。先ほどの2のところでは少し時間を使ってしまいましたので、申し訳ありませんでした。今の2番、新しい3番です。これはミスプリントで、2番になっているところが3番になります。その3番目の(1)の①を今、鈴木副委員長からご説明いただきました。②の恋ヶ窪以外の公民館について、どういう地域との関係があるか。これまで、第9回の会議の資料で、今お手元には配っていただいていますけれども、図書館、児童館との関係とか、公民館まつりでの地域連携とか、それは資料をいただいているのですけれども、そのほかにも、これまでいろいろな機会に紹介していただいている範囲で、地域との関係があると思うのです。例えば並木であれば、砂川用水とか農業講座とか、かなり重要なものがあるかと思います。それ以外にもあるかもしれません。そのほかの館についても、それぞれ固有の地域との関係があると思いますので、それらをやはり、恋ヶ窪公民館みたいに詳しくではなくて、本当にポイントを絞ってまとめていくことが必要かなと考えています。それらについては、できたら、各館から出ておられる委員の方と館長さんとで連携しながら、まとめていただけるとありがたいと思っています。その並木の部分と、そのほかの公民館の部分を、全部総合させて、国分寺市における公民館と地域との関わりというようなところを、鈴木副委員長と私との間で案をつくって、できればどこかの段階で、もうあまり期間がないのですけれども、議論できればいいなと思っています。それから(2)は、移転先の地域はどのような地域なのかを理解しておかないと、地域での役割というのも絵空事になってしまいますので、それについては、可能な範囲での内容でいいと思うのですが、公民館課にまとめていただけるとありがたいなと考えています。それらも含めて(3)で、提言というところになりますけれども、答申の1つの柱です。個々の項目としては、地域との関係といってもいろいろあると思うのですが、1つはサポート会議の構成員と役割。もう1つは、地域会議は後から出てくるからいいですね。それから職員の役割です。勤務場所をどうするかも含めて、ちょっと検討できればいいかなと思っています。それから市民参加のあり方です。これはまちづくりにつながるような市民参加のあり方。それから今の恋ヶ窪公民館にとって特に重要な、子どもの居場所の問題、それから地域の機関や施設との連携の問題、それから地域会議です。それと施設条件として、サロンとかロビー空間。これは先ほど私が言った大きい2番のことと絡んできます。それから相談・交流コーナーとか、エスカレーター、この間から、我々の中でも出ていますけれども、そういう問題とかもろもろです。今日できれば、このあたりについて、こういう側面からも地域との関係を論じるべきだというのがあれば、どんどん思いつきでいいので出していただけるとありがたいと思います。それを踏まえて、ご担当として、

鈴木副委員長と私とで、基本的に最終的にはまとめるつもりでいますけれども、部分的には、この辺ちょっと関心があるとか、得意分野だとかというのがありましたら、ご協力いただける方がいらっしゃればありがたいと思っています。(4)は、この間、地域を見学して急に思いついたことだったので、これが必要かどうかはよく分からないのですが、皆さんが必要ないと言え、もうこれはなしでもいいのかもしれませんが。開館まで大分期間があるので、移行期の間、地域をどうするとか、地域との関係をどうするとか、留意事項として、橋渡し期間みたいな、移行期間なので、何らかのことを書くべきかもしれないとも思っています。以上が地域との連携に関するところです。それから最後、これは3ですけど4になります。複合施設内の他の施設と連携した事業展開。諮問文では、「他の施設との」になっていますけれども、日本語として変なので、できれば、「の」はとりたいたいと思っています。まず、これを考えるためには、他施設の概要をちゃんと踏まえなければいけないので、これは施設がどうか、事業がどうか、貸館の仕組みとか、職員の役割とか、もろもろあると思います。料金とかも含め。それを恋ヶ窪公民館との比較表みたいな、一覧表ができると分かりやすいかなと思うのです。できましたら公民館課に可能な範囲で、そういう実態レベルでの他施設との比較表みたいなのをつくっていただけるとありがたいと思っています。それを踏まえて、他施設と連携した事業展開の提案ということになります。ポイントは3つほどあるかと思っています。ポイントというほどでもないですけども、要は、役割分担と差別化・連携。どういう役割分担をとるのかと。ほかに比べて、こういうところが恋ヶ窪公民館は特色があるという差別化の部分。それからもう1つは、連携してうまくやれる部分。両面からあると思うので、それをうまく出したいということと。もう1つは、学習の効果という面から見たときに、ほかの施設と公民館の違いを考えると、恐らく、福祉センターの資料を拝見していますけれども、個人の自己実現と、それを通した人と人とのつながりが随分考えられていると思うのですが、地域づくりへの活用とか波及効果は、あまり公民館ほどは考えられていないように見受けました。ですので、③はかなり公民館の重要なポイントかなと思いますので、そのあたり、特に公民館がリーダーシップをとりながらやっていって、ほかの施設のよさも踏まえながら、うまく合体させていく部分もあっていいのかなと思いました。そういう中で、他施設が、今は実現していないけれども、いろいろな可能性も持っていると思うので、これはちょっと偉そうな立場かもしれませんが、公民館が協力することによって、他施設の持っている可能性を開花させるというアプローチもあるのかなという気もしたので、そういうのもあり得たらいいかなと思います。そういうような側面から、他施設との連携を提案していければなと考えました。これも担当、最終的には鈴木副委員長と私が責任を持って、提案の大事な部分なので書きますけれども、興味がある

部分とか、ご自身が関係している部分、この部分はちょっと分担して書けるというのがあれば、おっしゃっていただけるとありがたいと思っています。最後に資料として、まだこれからいろいろ検討すればいいのですけれども、いろいろな基礎資料ですね。当然、最後に付録として入れるべきものがあるかと思います。以上です。限られた時間の中で、これから意見交換というのも大変かもしれませんが、とりわけ、お手元の資料で見たときに、裏面の、新しい3番の(3)、複合施設に入ったときの地域との関係。提言という部分での、ここに書いてあるもの以外のいろいろなアイデアがあれば、出していただけるとありがたいということが1つ。それからもう1つは、その次の3番が新しい4番になりましたけれども、その4番の(2)、他施設と連携した事業展開の提言のところですか。これは私が書いた3つの側面にこだわらず、何でもいいのでアイデアがあれば出していただくとありがたい。主にこの2つに絞って、よろしければ意見交換、アイデア出しをしていただくとありがたいと思います。そういう中で、最終的に担当も、もしこの辺ちょっとやってみるかなと思う方がいらっしゃればありがたいと思います。以上です。では、副委員長、お世話になります、よろしくお願いします。

鈴木副委員長：本当に限られた時間なので、どんどんご意見を伺いたいと思います。まず最初にですが、質問はありませんか、田中委員長に。

田中委員長：お願いします。

鈴木副委員長：ありませんか。では、2ページの。

委員：委員長への質問ということではないのですけれども、委員長が最初に言われた、我々の答申がどういうふうに使われるかというのは、前文に書いてはいけないのですか。各館から諮問が来ましたよね。それに対して答申を公運審として出すのですけれども、要は①②だけではなくて、時節柄、恋ヶ窪公民館の移転、複合施設の考え方等を踏まえて答申をせざるを得ないわけで、ですから、各公民館への答申だけではなくて、それを踏まえて、今後の複合施設の建設に向けて、あるいは活動に向けて、我々の答申をきちんと、さらに拡大発展して使ってもらいたいみたいなことは、前文の中で書けるのでしょうか。書けるのであれば書いていただきたいと思いますと思うのですけれども。

鈴木副委員長：どうでしょう。

田中委員長：ありがとうございます。とても大事な点だと思いますので、ぜひそれを書きたいですね。我々は我々に、こうやって使ってもらいたいというのを書きましょうか。

委員：言われたことを単に答申するだけではね。

田中委員長：そうですね。

委員：それともう1点ですが、諮問の文章を直せるのであれば、4番の「との」の「の」を削除ですが、「他の施設の」の「の」をとってもらったほうが分かりやすいと思うのです。「の」は2つとってしまったほうがいいと思います。

田中委員長：「他施設」と。

委員：ええ。下の文章は全部「他施設」になっていますので。

田中委員長：本当ですね。

委員：ちょっと失礼な話ですけど、もし諮問の文章を変えられるのだったら、1個とるのも2とるのも。この「の」は要らないではないですか。「他の施設」の「の」。

鈴木副委員長：よろしいですか。

田中委員長：では、そこは館長さんとのやり取りで考えます。諮問文を直すのか、あるいは諮問文の言葉にこだわらず、我々は答申文を書いていいのか、そこは確認します。

事務局：基本的に諮問文を直すのはなかなか難しいと思うので、そこにこだわらずに書いていただくのは逆に大丈夫だと思いますので、そういう方向でやっていただければと思います。

田中委員長：分かりました。

鈴木副委員長：では、前文に答申を使いなさいと。実現に向けて使いなさいということを入れるということで。それからほかにはご質問とかご意見ありませんか。

委員：あと、我々公運審の中で、杉並に行ったり、あるいは沖縄でしたか。あそこ、要は国分寺市の目指すのと、いわゆる進んでいるところの、こういうこともあるみたいなものがどこかに書けると、もうちょっと広がるのかなという。

鈴木副委員長：こういう研修を重ねてきましたということ。

委員：どういう書き方になるか分からないですけども、いわゆる全体の流れの中で、国分寺市の進み方みたいなことが書けるといいのかなと。ちょっと漠然としているのですけれども。

鈴木副委員長：それも前文、答申を出すに当たってというところでしょうか。

田中委員長：まず前文の中で、どういうプロセスを経てこれをつくってきたかという中に、沖縄の館長さんの研修会とか、杉並の見学会とか、そういうものをやってきたと。そういうことを踏まえてつくりましたというのが1つと。杉並と沖縄から学んだことの内容については、公民館とはどのようなものなのかというのを書くときに、③とかなり連動する問題なので、そこで学習の成果を生かして、簡単にでも、ポイントを紹介しながら書くというのでどうかなと思いました。

委員：よろしく願いいたします。

鈴木副委員長：ほかにはよろしいですか。では、①②に絞ってのご意見ということでしたので、ごぎいませんか。①というのは(3)複合施設に入ったときの地域との関係。

委員：恋ヶ窪の散策というか、散歩をしたではないですか。商店会の会長さんですか、ちょっと立ち話的にお話しというか、ご挨拶をして。非常に、僕とし

ては、いわゆるまちづくりというところで、そういう方との連携がとれるというのはいいなと思ったのですけれども、そこまで考えるべきなのか、あるいは権限としてどうなのかみたいなのはあるかもしれませんけれども、商店会の会長さんと、もう少し突っ込んだお話をして、例えばですけれども、まちづくりの計画みたいなものが、向こう3年、5年ぐらいの中であるのかなのか。もしあれば、それを応援するような形で、公民館と連携というか、この機会に、やはりまちづくりの計画を応援していけるような文言というか、項目みたいなものも入れて、実質的にそういうことを一緒にやりましょうねという動きになれたらいいかな。あの立ち話だけでは、なかなかそこまでいけていないと思うので、ゆっくりもう1回、お話を聞いてみて、そんなことをもし盛り込めるようであれば、それもいいのではないかなと思います。

鈴木副委員長：今の話は、田中委員長が言われた移行期の4年間の項目をどうする、入れるか入れないかということにも、その部分で委員が入れるという前提でのお話ですか。

委員：そうです。4年間の移行期間もそうなのですが、大きな市庁舎というものが移転してしまったので、複合施設が代わりに来ますけれども、移行期、それから移った、複合施設が稼働した後も、まちづくりという観点で連携していく姿勢みたいなものが示せたらいいのかなという気はするのです。

委員：私、あの地区のことはよく分からないのですが、新府中街道が市役所のほうまで今度延びますよね。あれによって、あの辺の商店会は何か影響を受けそうなのですか。それとも、あの辺はあまり関係ないのですか。

事務局：ちょっとその点は、分かりません。その影響があるかどうかは分かりません。

委員：かなり交通量が激しくなりそうですものね。

事務局：そうですね。

委員：お店はないけど、商店会という、認識されている距離は、結構、新府中がつながるところぐらいまであるようなお話はされていたと思うのです。

事務局：そうなのです。結構続いているというか。

委員：チェーン店みたいなのが、いっぱい両脇にできそうな感じがしますね。

委員：そうですね。

鈴木副委員長：そうですね。ほかにはどうですか。どうぞ。

委員：全く違う切り口なのですけれども、私、グッドネーバース・ジャパンとか、そういうので寄附くらいしか私にはできないので、そういうこともやっているのですけれども、社会問題の1つとして、フードロスということと、あとは多分、こちらのほうではすごく無駄をされていて、母子家庭の子どもたちの貧困とか、それで結構、その子どもたちにご馳走というか食べ物を、ご飯を食べさせる。自分たちのプライドを保ちながら。いわゆる施されるというのは嫌ではないですか。だからそういうような感じのシステムみたいなことを結

構、この間もちらっと新聞で見たのは、居酒屋さんがいろいろ協力しているとか、そういうのがあって、そういうことに公民館は活用できないのかなみたい、今ちらっと、皆さんのお話を伺いながら。せっかく「公」がつくのでしょうか。ですから、そういうところにもっと何か活用できるようだったらすごくいいな、なんてちらっと思ったのです。私ができることはお金を寄附する、そういうことしかできないので、そういう活動、フードロスの問題と貧困家庭の問題を結びつける。すごく大きいことだとは思いますが、そういうのは一市民、1人の力では全然できないので、もうちょっと公というか、政治とかとなるのかもしれない。政治、そこまではいかないのかなという感じで、そういうのに公民館が関わるといいな。何とかならないのかなとちらっと思いました。この辺、皆さんもちょっと考えていただけるとうれしいなと思います。

事務局：今、恋ヶ窪公民館は調理室がないからその発想はないと思うのですが、新施設はやろうと思えばできるようになるわけです。

委員：フードロスなのかどうか分からないですけど、本多公民館ともたまち公民館で、たまりばという。

事務局：たまりばがやっていますね。

委員：ボランティア団体が、お昼どきに子ども向けに食事を。そのときに、パンを何か、そういうところで、無償でロスのものを使ってくださいというのは、お土産で配られる感じで、そのところは若干、フードロスにも貢献しているのは現在やっていますよね。

事務局：あそこでできなくはないわけです。

委員：調理場のほうで。

事務局：複合施設ならば。

鈴木委員長：たまりばというのを、資料として提供して。

事務局：今度の日曜日、たまりばはもとまちでやります。見に来てください。

委員：やっているのですか。

事務局：やっています。月一です。

委員：午前中。

事務局：今度の日曜日、午前中か昼ぐらい。

委員：ちょっとのぞきに。

事務局：連携とります。

鈴木委員長：こういうのをやっているから、だから複合施設にできるよねということで、その文を書いていただいて、写真もつけて、提供してください。

委員：私は全くイメージできない。

事務局：言った以上は。

委員：全くイメージできない。

鈴木委員長：いやいや、そんな難しいことではないので。

委員：私、今、手術を控えている身なので、ちょっと私は。

鈴木副委員長：では、どなたか。

委員：私がやります。

鈴木副委員長：よろしくお願いします。

鈴木副委員長：田中委員長、そういう案が出ましたが。

田中委員長：いいのではないのでしょうか。いろいろな可能性があるのですが、公民館の主催事業としてやるというのではなくて、そういう団体ができるだけ使いやすいようにして、恐らく公民館は応援するという形ですね。

鈴木副委員長：それは（３）番でしょうか、それとも４の（２）でしょうか、どちらでしょうね。よく分かりませんが。

田中委員長：今のフードロス云々になると、（３）の中の、その他様々な地域課題への関わりとか取組とか、その中の１つの例として挙げることはできると思います。

鈴木副委員長：ではそういうことで、委員、よろしくお願いします。

田中委員長：ぜひお願いします。

委員：いつあるのですか。

事務局：今度の日曜日。

委員：12時ぐらいから。何時から。

委員：今度の日曜って、あさって。

事務局：あさってです。

委員：何時からですか。

事務局：10時ぐらいからやっているのでは。お昼を食べているのです、ちょうど。お昼にカレーか何かだと思っただけです。

委員：福祉センターも、されたことあるような気がします。

事務局：ありますね。なので、移転してくればできます。

鈴木副委員長：福祉センターと一緒にできるということもありますね。ほかにご意見、時間がないのでどんどん。どうしましょう。

事務局：あと、田中委員長に1つ、お願いが。コミュニティ・スクールと公民館の関係を書いておいていただけるとありがたいなど。そうすることで、だからこそ公民館が教育委員会になればいけないのだということが明確になるので、それを書いておいていただけるとうれしいです。今、もとまち公民館はコミュニティ・スクールと連携しながら、実質丸抱えみたいな形でいろいろなことをやっているのです、そうやれば首長部局移転とか、そんな話が少しは和らぐかなとは思っています。

田中委員長：ありがとうございます。とても大事な点で、私のから抜けていました。できましたら並木公民館の地域との関係の中にもそれがきちんと位置づき、それから他の公民館も、コミュニティ・スクールとの関係がどうなっているか、できれば一覧表というか、資料をいただければ、文章は私のほうでもできるかと思っておりますので、今の、どうしましょう、新しい3番の、これからも地域

に根ざす公民館としての役割についての（１）の②、その他の公民館の中に、コミュニティ・スクールとの関係という項目を入れて、そこも、館長さんたちに、あるいは各館の委員の方に、基礎資料をつくっておいていただくとありがたいと思います。大丈夫ですか、それで。

鈴木副委員長：まだできていない学校もありますからね。

事務局：はい、できていない学校がありますけれども。

鈴木副委員長：あるところだけでも。それではほかには。思いついたことをどんどんおっしゃってください。いいですか。では、これをいつ、どのように集約して、誰が担当してということ協議に入っているいいですか。

田中委員長：お願いします。

鈴木副委員長：ここをやりたいということ、全部やるのではなくて、ここの一部をやりたい、何かできませんか。

田中委員長：特に、今決めていただきたいのは、それぞれの提言の部分です。提言の部分の担当をどうするかと書いたので、この部分をもし、資料提供でも、書くのでも、お願いできればいいと思っています。

鈴木副委員長：２ページの３番の（３）。委員からは、資料提供しますということのお話があり。

委員：私はだから、この（３）の子どもの居場所とか、施設との連携あたりで、何文字ぐらい書けばいいですか。

鈴木副委員長：何文字はないですね、たくさんでいいです。制限なし。書きたいだけ書いてください。

委員：能力の問題があるのですが。

鈴木副委員長：それはお互いさまです。

委員：別途相談させてください。

鈴木副委員長：では、子どもの居場所、これについても委員よろしくお願いします。

委員：子どもの居場所という意味では、本多公民館の異世代交流事業というのが、もともと週５日制で、土曜日、子どもを遊ばせてあげようということで発足した、最近ではコロナで土曜日にいろいろ学校の事業が増えてしまっているの、考え直さないといけないのですけれども、私も一応、異世代から公民館運営サポート会議に出ているので、その辺も書いていいですか。

鈴木副委員長：はい。

田中委員長：ぜひお願いしたいですね。

委員：ありがとうございます。

鈴木副委員長：ほかにはどうですか。この提言の中で、この部分は書けるよという方。

委員：これは個人個人に振るのですか。前期はグループで３人とか４人、２～３人かな。３人グループぐらいでいろいろ話をしながら詰めていったと思うのですが、もしかしたら時間がないから今は個人に振っているのかもしれないのですが、個人１人で負担、完走するのは結構しんどいと思うのです。だか

ら、その辺のタイムスケジュール、時間の余裕のところと、振り方として個人でいいのかなという感じはします。

田中委員長：今、個人にこだわっているわけではなくて、前期は報告書の答申全体を大きい柱に分けて、それぞれグループで担当していただいたのです。今回は、これまでの経緯とか、位置づけの関係で、第何章はどのグループというのはなかなかできないので、全体は委員長、副委員長で責任を持とうということで、あと、実体としては、事務局のほうでつくっていただけるものはつくるというような形で。あと、今個人と言っているのは、本当の各章、節の中の細かい項目のこの部分という限定で申し上げているので、例えばそこは個人でもいいですし、あるいは2～3人で、「じゃあ、この辺は私たちがやってみようか」というのならそれでもいいし、個人でも複数人でもどちらでも構わないと思っています。

鈴木副委員長：ということで、いい知恵を。

田中委員長：もしあまりなければ、今のこの段階で、では私はここと、なかなかイメージが湧かないかもしれないので、今、委員からは、ご自身の経験から、異世代交流とも絡めて子どもの居場所というお話が出たので大変ありがたいことなのですけれども、そういうことで、ご自身がやっていらっしゃるものと絡めながら、この部分というのがあれば、また、例えば1週間以内で事務局にお話しいただければありがたいというぐらいでいかがでしょうか。

鈴木副委員長：どうでしょうか、よろしいですか、それで。では、そういうことで、皆さんにご賛同いただいていますので。それでその後、今回は2月ですよ。それまでにやらなければならないこと。

田中委員長：まず今日、公民館課と書いたものとか、各館からの委員とか、各館長と書いた部分については、次回、2月の会議に、文章化までいっていないとしても、資料的に、あるいはレジュメとか資料とかいうので、実体として、こういうものが出ますというか、出しますというか、これを答申に載せるべきですというものを出していただけるとありがたいと思います。担当する委員にお願いした、今の子どもの居場所の部分についても、そのレベルで出していただけるとありがたいと思います。

委員：具体的にはいつまでという感じですか。

鈴木副委員長：公運審当日では間に合いませんよね。

田中委員長：そこまでは考えていなかったです。

事務局：逆に田中委員長の文章は間に合うのかという。

鈴木副委員長：そうですね。だから。

田中委員長：事務局に確認ですけど、2月28日に文章化までいってなくていいのですね。

事務局：そうですね。前回は大体、しっかりした形で出たのは多分、4月の公運審のときに、「じゃあ、これで」といって、そこで議論して、最後修正して、5

月に、「じゃあ、もう1回これで」というような形で出していたと思うので、4月の公運審のときまでに、ある程度の文章ができていればいいのかなという感じはします。

田中委員長：そうすると2月28日に、それぞれが、これを使えば全部文章が書けるというレベルのものが出来ればいいのではないかなと思ったのですが、いかがでしょうか。あるいは、その日というと、事務局のほうでも取りまとめができないので、事務局が1つのまとまった資料として出すのにゆとりがある時間を見て、1週間前とか、そういう感じで出していただくというのでいかがでしょうか。

委員：大変申し訳ないですけど、私、個人的なことで、2月28日は欠席です。私自身の好み的なことを言うと、私は詩吟のほうの人間なので、邦楽を地域に根ざしたいという、そういう強い気持ちがあるので、そういうことぐらいでしかお役に立てないかなとは思っています。

鈴木委員長：それはそれでとても大事な。

委員：そうだと思います。邦楽がだんだんすたれていく。それは私自身も問題ではないかなと思っています。西洋音楽ではなくて邦楽、その芸術的なそういうようなものをちゃんと地域に根ざしていただきたいかなと思っていますので、それは文書に書いて、それはできます。

鈴木委員長：お願いします。田中委員長、28日に皆さんが出してくださったのを、そこでバツと広げてどうするということではなくて、28日にはある程度の構成ができています。構成ではなくて、割りつけができています。新聞で言うと割りつけができています。そしてその中身については、文章は吟味しないにしても、例えば日本の邦楽と芸術と、その地域との何やらということだとか、それから子どもの居場所とか、いろいろなことについては、この資料、この資料ということで、差し込んでいけるような。差し込んでいくというか、今日の私が出した資料みたいに、恋ヶ窪公民館を出した、そういう形で全体的なアウトラインは28日にはできていないといけないのではないかなと思ったのですが。

田中委員長：そうですよね。だから今日出したのはアウトラインというか、骨子のつもりなので、これで問題なければ、骨子はこれだと。この後、中身を充実させていくということなので、それぞれのご担当にお願いしたいというのを言っているのですが、各項目の具体的な内容を文章化までいってなくても、ある程度、中身はこれなのだというのが分かるような資料がそれぞれ出ていればいいなど。そう考えています。

鈴木委員長：そうするとそれを28日の会議に、田中委員長から出していただくためには、何日前に田中委員長のところにその資料が届くといいですか。

田中委員長：私が出すのではなくて、私は私の担当のところを出しますので。

鈴木委員長：もちろんそうですけど、構成を膨らませていくのでは。

田中委員長：例えば、校正とか校閲などは最後にやればいいので、例えば1番の複合施設の概要であれば、(1)(2)(3)に該当するところを、公民館課のほうで埋めていただき、それを事務局のほうで資料として作成していただくというイメージなのです。2番はまさにこれ、私がやらないといけないので、笹井委員がどこまで共有できるか分かりませんが、これは自分のところである程度責任を持って出すつもりです。3の(1)については、①は鈴木副委員長と恋ヶ窪公民館長で、今日のがブラッシュアップされる形だと思っています。というような感じですけど、どうでしょう。それぞれだからできたものを全部、本当に申し訳ないのですけれども、事務局に送っていただいて、事務局のほうで間をつなげていただく。まとまったものとしてボンと会議の日に出していただくという、そういうイメージでしたのですけど、どうですか。

鈴木副委員長：だとすると、事務局のところに届くのはいつまで。

田中委員長：それが作業できる範囲の条件でご提示いただければありがたいです。

事務局：そうであるならば14日から、21日の間ぐらいまでにいただければ。

鈴木副委員長：では大丈夫ですね。

委員：A4ぐらいに、箇条書きぐらいでいいですね。

事務局：多分、イメージとしては、鈴木副委員長が書いてくれたような形で、プラスチックされているものが出てくると考えていていいのかなと思います。

鈴木副委員長：では皆さん、14日から21日までの間に。

委員：皆さんというのがよく分からないのですけど、みんなが書くのですか、これ。自分が書ける項目について。

鈴木副委員長：いえ、そうではないですけど。

委員：取りあえず2人しか決まっていない。

委員：2人しかいないです。2人が今お手を挙げていただいて書くと。

田中委員長：2人だけではなくて、館長と各館の代表の委員の方に協力してつくっていただく部分があるので。

委員：いや、そうではなくて、公運審のメンバーの割り振りの話です。

鈴木副委員長：だから、基本的に。

田中委員長：だから、それはもう、今日は2人で。

鈴木副委員長：そうです。今日は2人なのですけど、先ほど、1週間のうちに、できそうだとすることがあったらお知らせくださいということだったのではないですか。例えば並木選出の委員でしたら、まちづくりがどうだとかいうこととの観点で。

委員：それは結構、ばらばらといろいろなことを、つながりなく書くかもしれないのですけど、それを事務局のところで整理できるのですか。

鈴木副委員長：整理していただく。

事務局：僕は整理ではなくて、皆さんからもらったのをつなげるので、あと、それを最後、整理していただくという話です。

委員：つなげられるかという話ですけど。

事務局：それだったらなのですが、多分それはそれでしようがないと思うのです、プロットで上がってくる分には。2月28日の段階で、AさんとBさんがかぶっているようだったら、AさんとBさんで2か月後までに整理して上がってくるものを提言としてまとめていくというのはどうですかね。

委員：館長から言われるのがちょっとしゃくなのですけれども。諮問したほうですから。

事務局：そうですね。言いたくはないんですけど。

委員：今つくっていただいた骨子の中で、我々メンバーがつくるものは、3番の(3)と4番の(2)だと思うのです。そうすると(3)をやるチームと(2)をやるチームを、28日なのか、あるいは今日なのか、割り振りして、その中の素材みたいなものをそれぞれ21日までに考えてくるみたいな。あるいは文章化で出せば出してもらいたい形にして、28日から、(3)と(2)のところをチームでつくり上げていくような方向づけはいかがでしょうか。

鈴木委員長：皆さん、どうですか。

委員：それがいいと思います。私はそれが一番、方向づけはやりやすい。

委員：公運審の答申ですから、どこかやはり関与したいですよ、皆さん。皆さん。

鈴木委員長：皆さん、よろしいですか。そういうことで。いいとか悪いとか、返事してください。

委員：要するに提言、アイデアですね。提言ということは。アイデアを出せばいいのですね。

委員：アイデアを出していただいて、多分そのチームを分けた中にまとめられる人がいると思うのです。いなければ、能力のある方が、委員長、副委員長がいますので、アドバイスしてくれると思います。

鈴木委員長：ということは、チーム分けするのが28日。

委員：できれば今日やってしまったほうがいいと思いますけれども。

鈴木委員長：今日やったほうが。そうですか、皆さん。どうですか。よろしいですか、それで。

委員：チーム分けして、その中に関わることで、自分が提案できそうなことを21日までに事務局に送る、そうですね。

鈴木委員長：それでよろしいですか。

委員：私の場合だったら、私しかいませんよね。

委員：だから我々は(3)です。

委員：私はでも邦楽の関係だから。

委員：全然問題ないです。

鈴木委員長：全然、邦楽は(3)の中に入っていますから。

委員：だから別々に、A4で箇条書きして送ればいいのでしょうか。

委員：大丈夫です。

鈴木副委員長：まだ決まっていないので。では、そういうことで、皆さんよろしいですか。

委員：何か見えていない。

鈴木副委員長：(3)の複合施設に入ったときの地域との関係の提言で、こういうアイデアがあるよ。実践、こういうことをしているよということを(3)でお互いに出し合って、その後、文章化していくというチームと、それから4番の(2)、他施設と連携した事業展開の提言、事業連携、イベントなど、役割分担、差別化、一般的な学習の場、それから公民館の協力により開館させるという、そういうグループに分かれてやるということです。

事務局：グループでやる以上、グループの中では話し合っ、まとめて送っていたとくという感じになると。

鈴木副委員長：そういうことですね。

事務局：メールでも何でもいいけれども。

鈴木副委員長：やり方はそのグループで。

委員：それは28日に集まればいいわけでしょう。だってこのときにつくり上げるわけではなくて、最終的な締め切りは3月か4月なのでしょう。

田中委員長：3月はたしか議会の月だから、会議はないですね。

鈴木副委員長：ないです。

田中委員長：だから2月の終わりにグループの討議というか、作成はスタートしても、2か月くらいあるので、その間に具体的な文章化を頑張っていただければいいのかなと今思いました。ただ、今からグループ決めておいたほうが、アイデア出しとか何かも効果的だと思うので、できれば今日いらっしゃる方でもグループを分けておいて、欠席の方は適宜入れて、それで次回までは、先ほどお話あったように、個人ベースでどんどんアイデアを出して、それを事務局のほうで物理的にまとめてもらって、それを踏まえて、2月の会議で議論して、それを基にグループでまとめ案をつくると。それでいいのではないかと思いましたが、いかがですか。

鈴木副委員長：そういうことでよろしいですか。

田中委員長：実は今回は、テーマ性とか、スケジュールからいって、グループ活動は無理だと思って諦めていたのですけれど、今日こういう話でグループがいいという意見がどんどん出てきたもので、大変ありがたく、実は感動している次第です。ぜひいい形で、グループ活動ができるといいなと改めて思いました。ありがとうございます。

鈴木副委員長：では、取りあえずグループ分けしておきましょう。そういうことでいいですね。(3)の提言は稲津委員と江淵委員、あとどなたか。

委員：ではやります。

鈴木副委員長：川上委員。それから、では4の(2)は。

委員：人数がいないのでこちらでやります。

鈴木副委員長：坂本委員、辻委員、それから松田委員ですね。

委員：今さらですが、(4)はどうでしょうか。

鈴木副委員長：(4)、移行期の4年間。

委員：なしでもいいという委員長のお話ではありましたが、これを書く場合には、これはどんな方が書く予定なのですか。

田中委員長：これはたしか、言い出しっぱは私ですよ。この間、商店会長さんと話を
して、急に4年間は大事だなと思って言ったので、今ここに書いてあるの
です。ただ、場合によっては、先ほどインタビューしたほうがいいという話
があったので、その結果を載せるとしたら、(2)のほうだと思うのです。地
域の概況のところ、商店会の会長さんはこう考えていると。場合によっ
ては、今大事なのは、公民館自体の生き残りの問題なので、地域をどう
するかは(2)の中で、移行期の4年間についても併せて書くというので
どうかと今、思い始めました。それを公民館側に書いてとお願いする
のは立場上難しいと思うので、実体を公民館課に書いてもらって、
あと、インタビューするのなら副委員長と私とで一緒に行くとか、
一緒に行きたい方がいらっしゃれば、一緒に行っていただくとか、
4年間の提案とか留意事項は、我々のほうで少し考えて書いてみる
ということかなと今思いました。だからあえて(4)を立てなくてもいい
かなと今思い直したという次第です。

鈴木副委員長：委員長のご提案いかがですか。皆さんそういうことでよろしいですか。

委員：賛成です。何かご意見が。

委員：委員長の提案でいいのですが、私、西国分寺の駅に、あるいはその周辺
に結構頻繁に行くのです。今すごく感じるのは、朝とか夕方、人の動きが
すごく変わったなど。増えてしまった。それから逆に恋ヶ窪は減ってしま
っている。それはやはり新庁舎の影響で、職員の方も、すごく多くの方
が西国で降りて、新しい市役所に行く。それから、いろいろ用のある
方も恋ヶ窪ではなくて西国分寺に行く。そういう人の流れが明確に
変わっているのを痛感するのは、西国の駅の近くに行くと。やはり
場所をどこに置くかは、それは皆さんの総意でいいのだけれども、
この問題は多分、4年後に複合施設ができて、全然取り返せない
ぐらいの人の流れの変化が既に起こっているのです。どこかでしっ
かり取り上げて、まちづくりという課もありますけれども、公
運審としても、何かそういうことに少し目配りした提言なり、意
見を述べておくことはすごく大事ではないかなと、私は感じていま
す。

鈴木副委員長：委員長、よろしいですか。

田中委員長：とても大事な点だと思います。取り入れるなら(2)に、
今、委員が言われたようなことを(2)に、やはり現状認識として、
ある程度書くことと、(3)の中に、やはり我々も地域活性化の中
で、公民館が何に役立てるかを、少し力点を置く必要があるかな
と今思いました。ありがとうございます。

鈴木副委員長：では、協議事項はそれでよろしいですね。よろしいでしょうか。

委員：確認ですけど、今2つに分かれたグループの中で、自分が書けそうなことを21日までに事務局のところにお送りして、28日にそれをみんなでざっと開いて、どうしましょうかという話をするということがいいですか。

鈴木副委員長：そうです。よろしいですか。では、次回は2月28日。

鈴木副委員長：そのほか、委員の皆さん、何かございますか。ありませんね。

委員：おのおので書いてくるということですか。グループの中で1人1人が書いて。

鈴木副委員長：事務局に送る。

委員：それで江渕委員、川上委員、私がそれぞれ今、ごちゃごちゃとある程度決めたのですが、私が心配することではないのですが、2のほうは、何を出すかはいいのですか。

委員：何が出るというか。

事務局：この後、話し合ってもいいと思います。

4 その他

鈴木副委員長：では、特にないようでしたら事務局からお願いします。

事務局：では、次回の日程のお話をします。次回は2月28日の金曜日、午後2時から4時で、本多公民館で行います。この後、ここの場所を使って打ち合わせしてもよいですし、また何かグループの中で打ち合わせをしたいということがあれば。本多公民館のほうに言っていただければ、空いている限りは場所を押さえたりもしますので、グループの中で話し合いたいとかいうときがありましたら、何なりと言っていただければと思いますのでよろしくお願ひします。

事務局：各公民館、どこでも同じなので、各館長に。近い公民館があれば、「ねえねえ」と言えば全然。

鈴木副委員長：そういうことだそうです。

事務局：そうですね。本多はとりづらいかもしれないので、ほかの館のほうがりやすいかもしれないので、ほかの館で集まりたいのであれば、連絡していただければとります。

鈴木副委員長：ちなみに4月はいつになりますか。

事務局：4月は決まっています。

鈴木副委員長：決めてほしい。

事務局：決めないと駄目ですね。

鈴木副委員長：金曜日ですよ、基本的には第4。25日ですか。

事務局：そうですね、通常であれば4月25日の金曜日によければ。

鈴木副委員長：田中委員長、いかがですか、4月の予定。

田中委員長：25日で大丈夫です。

鈴木副委員長：ありがとうございます。皆さん、4月25日です。

委員：2月28日の次が4月25日。

委員：大丈夫です。

事務局：ちなみにその次となると、5月が議会月になるので、6月になるのかなという感じです。

委員：第4ですか。

事務局：例年、6月が議会月なのですが、6月が市長選なので、5月が議会月なのです。なので、6月になるのですが、6月でやると、任期も皆様、6月いっぱいになるので、そこで6月の公運審のときに、これで決定という形で渡していただけるような形になると一番きれいかなという感じはするので、よろしいでしょうか。

鈴木副委員長：6月27日になるのですか。予定は。

事務局：そうですね。

田中委員長：私は大丈夫です。

事務局：では、今日欠席の方にも一応、事務局からご連絡しつつ、本日、課長も欠席なので、調整していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

鈴木副委員長：ありがとうございます。長い時間、すみません、20分以上も延長してしまいました。

田中委員長：1個だけ。欠席の方には、グループ所属はどうしますか。次回でもいいとしますか。例えば、事務局から希望をどちらか聞いてもらうとか。ただ、どちらかに集中してしまうと。

事務局：そうですね。基本的には委員長、副委員長と識見の笹井委員は入っていないかと思うのですが、そうすると今回欠席しているのは矢島委員と有馬委員という感じなのですけれども。

委員：どちらか1人ずつ。

事務局：1人ずつ。もし我々としては、この場でふさわしいほうに決めていただいて、こちらになりましたと連絡してもいいかなとは思ったりもしますが。

鈴木副委員長：とってください。

田中委員長：例えば、校長先生はどちらかというのと、やはり地域との関係、コミュニティ・スクールも入ってくるので、裏面の上半分の(3)、稲津さんたちと同じグループがいいかなと思います。それから有馬さんは、福祉の専門なので、そういう意味では、福祉センターの関係には造詣が深いと思いますので、下の他施設の連携がいいかと思います。笹井委員は私と一緒に、大きい2番目をやってくれるのならそちらでご担当いただけると一番ありがたいかなと思うのですが、そんな感じだといかがでしょう。

鈴木副委員長：よろしいでしょうか。

委員：委員長決裁でいいのではないですか。

鈴木副委員長：では、そういうことで。言い残したことはありませんか。よろしいですか。

田中委員長：では最後に、本当に今日は私のためにご迷惑をかけて、こんなところからの参加で、しかも説明が長くなって、議論が延長して時間オーバーで申し訳ありませんでした。鈴木副委員長には非常にてきぱきと進めていただいてありがとうございました。

鈴木副委員長：お疲れさまでした。お大事になさってください。皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

田中委員長：ありがとうございました。どうも。

鈴木副委員長：では、終わりにします。

——了——